



そらぐみみんなでかんがえた “へいわなまち”



そらぐみで“戦争”と“平和”について考えました。広島と長崎に原爆が落とされてたくさんの命がなくなったこと、戦時中の日本の暮らしなど、絵本や話し合いを通して一緒に考えていく中で、初めは“実際にあった本当のこと”として分からなかったことも、少しずつ感じる事が増えていくようになり、戦争をしたら「嫌な気持ちになる」「やったらだめ」「みんなが傷つく」「こわい」と真剣に気持ちを伝えてくれる姿がありました。『どうしたらよかったかな』と尋ねると「やめたらいい」「叩いたりせずにごめんねっていう」「口で伝えて相手の話を聞く、話し合いをする」など、たくさんの思いが出てきました。



絵本に出てくる戦争中の真っ黒な海や町を見て、「真っ黒は嫌や、みんなとあそべる街が良い」という子の意見に、みんなが納得しました。みんなとあそべることや美味しいご飯が食べれることなど、今ある生活が“嬉しいこと”だと伝えてくれた子どもたち。そして自分たちが思う“平和な街”を描き始めました。

「一人は寂しいから友だちも描きたい」「真っ黒じゃなくて青い海に色々な魚がいるのがいい」「お花や木、森があって虫もおる」中には、「せんそうなくなりますように」と文字を書いている子もいました。描くときには、それぞれが思う描きたいことを出し、話し合いながら、みんなで一つの絵（平和な街）にしていきました。自分だけじゃなく友だちの意見も大事にしている姿を見て、お互いに思い合える友だち関係が素敵だと思いました。



～千羽鶴に平和へのねがいを込めて～

絵本『おりづるの旅』を見て、鶴を千羽折ると願いが叶うということを知った子どもたち。日本や世界への平和の思いを込めて、自分たちでも千羽鶴を折りたいという声があがりました。難しいけど頑張ってみようとする姿や分からない子に教えてあげる姿から、平和への思いが子どもたちの中で大きくなっていることを感じています。出来あがったら「戦争してるところに持っていく」「戦争するのをやめてって言う」と目標もできました。

ぜひお家でも色々なお話をしながら子どもたちと一緒に鶴を折り、保育園に持って来てください。

